

令和元年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長コメント

令和2年3月17日

本調査は、小学校第4・5学年及び中学校第1・2学年の学力の定着状況を把握・分析し、その状況をもって、学習内容の充実や指導方法の工夫・改善につなげ、学力の確実な定着を図ることを目的としています。

今回の調査結果において、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の正答率は引き続き高い状況にあります。また、目的や意図に応じて分かりやすく説明したり、問題解決の結果や過程、見いだした数や図形の性質などについて説明したりすることについては、改善の傾向が見られています。

しかし、文章・図表・グラフなどから必要な情報を根拠として読み取り、複数の情報を関連付けて自分の考えを表現することや、他教科の学習内容及び日常生活と関連付けて問題解決を図ることに課題が見られています。

予測困難かつ変化の激しい社会の中で、情報を主体的に捉えて、その情報を活用しながら他者と協働して問題を発見し解決していく力が求められています。各学校においては、言語活動の充実のほか、問題解決能力の育成を一層重視し、学習や生活のあらゆる場面で活用できる力を育むことを大切にしていきたいと思えます。

県教育委員会としては、子どもたちの学力の定着・向上を図るために、教員同士が学び合い高め合う仕組みを構築し、組織的な授業改善の取組を推進してまいりました。今年度末に策定される「第3期高知県教育振興基本計画」においても、引き続き6つの基本方針の筆頭に「チーム学校の推進」を掲げ、取組を一層充実・強化してまいります。

そのため、来年度は、小学校に導入したメンター制を拡充し、組織的な人材育成の構築を図ります。併せて、中学校では、教科のタテ持ちや教科間連携の取組を継続し、チームで主体的に学び合うシステムのさらなる充実を図ります。また、本年度に、国語、算数・数学、英語、特別の教科道徳で実施した「授業づくり講座」に、次年度は社会、理科、複式授業を加えて拡充し、複数の情報を関連付けて自分の考えを表現することなど、本県の学力課題の解決を図るための授業や「主体的・対話的で深い学び」が各学校で展開されるように進めてまいります。

次年度も市町村教育委員会や各学校との連携及びご協力のもと、これらの取組を推進し、高知県の子どもたちの学力の定着・向上につなげてまいります。

高知県教育長 伊藤 博明